



# 身近なみどりに学ぶ

財団法人相模原市みどりの協会主催による、夏休み自然観察会が、去る8月28日(土)に開催されました。相模川散策路および周辺の植物を見て、学ぶことを目的とした観察会で、当日は35名の参加がありました。

# さがみはら グリーン



Vol.15

平成11年10月3日発行  
編集・発行者 / 財団法人相模原市みどりの協会  
発行所 / 〒228-0828 相模原市麻溝台2317番地の1 市立相模原麻溝公園内  
財団法人相模原市みどりの協会 ☎042 777 2860  
ホームページURL: <http://www.sagami.ne.jp/green/>

財団法人相模原市みどりの協会機関紙



清流の里でのミーティング



相模川沿いでの観察(上大島キャンプ場)



クス(マメ科)

変わった形の花だね。知らなかった、葛粉って根からとれるんだって。



カラスザンショウ(ミカン科)

うわっ、にがい実。でもちょっとミカンの香りがするみたい。



ヒエ(イネ科)

かわいい花!これもクレマチスの仲間なんだってね。

ポタンツル(キンポウゲ科)

普段食べてる、あのヤマゴボウじゃないんだね。毒があるんだって。

ヨウシュヤマゴボウ(ヤマゴボウ科)



これはもちろん、野生じゃなくって畑で作られていたもの。食べるのかなあ。



標本の見学と標本作りの実演(共に資料提供は北里大学薬学部附属薬用植物園)



当日は、暑さは残っていても心地よい風が吹く、野外観察には好都合の天候でした。

参加者はまず、相模原市大島の「清流の里」に集合し、班を編成して相模川散策へと向かいました。川沿いから中州を巡って、散策路は民家の軒先へと続きます。そして出発点の清流の里に戻る、およそ2時間半の行程。班ごとに講師の方々が同行し、植物を観察しながらいろいろ話を聞くことができました。珍しい木や面白い名前の付いた草花、意外な効能を持つ草など、わかりやすい説明に皆、熱心に耳を傾けていました。やはり植物好きが揃っているようで質問も続々。終始なごやかな雰囲気での観察会でした。

参加した人たちは「いろいろなことがわかり来てよかった」「楽しかった。また参加したい」という感想が聞かれました。来年は、みなさんもぜひ参加してみませんか。

- 講師の方々(順不同・敬称略)
- 佐竹 元吉 国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長
  - 南雲 清二 星薬科大学 薬用植物園 講師
  - 磯田 進 昭和大学薬学部附属薬用植物園 講師
  - 高野 昭人 昭和薬科大学 薬用植物園 講師
  - 渡辺 高志 北里大学薬学部附属薬用植物園 助手
  - 田淵まこと 北里大学薬学部附属薬用植物園 講座研究員

# オータムフェア'99

今年も「文化の秋」、「食欲の秋」、「体育の秋」がやって来しました。相模原麻溝公園ではこれらの内容をふんだんに盛り込んだ『オータムフェア'99』が開催されます。秋の装いにつつまれた公園でのさまざまな催しを通して、心も体もリフレッシュしてください。どうぞご家族そろって、おでかけになってみてはいかがでしょうか。

オータムコンサート 10日(日)ふれあいドーム  
相模原音楽家連盟による二重唱や弦楽四重奏の演奏  
1回目...午後1時30分~ 2回目...午後2時30分~  
各回30分の演奏

竹トンボ講習会・竹馬試乗会 10日(日)・11日(月)みどりの広場  
相模原造園協同組合、山口幸恭氏、岡本孝喜氏の協力による竹トンボ作りと竹馬試乗会 午前10時~午後3時30分

花、植木、野菜類の展示・即売 10日(日)・11日(月)センター広場  
相模原市緑化木生産組合、相模原造園協同組合、相模原市農協麻溝支店による花、植木、野菜類の展示・即売を通常の価格より廉価で提供します。午前10時~午後3時30分

秋蒔き種の無料配布 10日(日)・11日(月)センター広場  
金魚草、スイートピー等の秋蒔きの花の種を無料配布します。  
各日先着3,000名に配布 午前10時~

陶器、木工製品等の展示・即売 10日(日)・11日(月)水の広場  
相模原市障害者地域作業所等連絡協議会が市内各所の地域作業所で作っている各種製品等を展示・即売します。  
午前10時~午後3時30分

庭木の相談会 10日(日)・11日(月)水の広場  
相模原造園協同組合による庭木、植木の相談コーナー  
午前10時~午後3時30分

模擬店 10日(日)・11日(月)水の広場  
相模原造園協同組合による焼きトウモロコシ、フランクフルトなどの出店。  
午前10時~午後3時30分

園芸豆図鑑「観葉植物」の無料配布 10日(日)・11日(月)管理事務所ホール  
相模原市みどりの協会が今年度の園芸豆図鑑として作成した小冊子を無料配布します。各日先着1,000名に配布 午前10時~

秋の動物フェスティバル 11日(月)ふれあい動物広場  
ポニーの無料乗馬、人形劇、モルモットルーレット、てい鉄投げ、動物ペンダントなど。(参加無料)午前9時30分~午後3時30分 雨天は17日(日)に延期

秋の公園スケッチ会・展示会 11日(月)スケッチ会場 相模原麻溝公園内  
子供部(小学生以下100名)と一般部(中学生以上50名)(いずれも先着順)に分け、秋の公園内のスケッチ会を行います。 午前9時30分~

雨天の場は中止  
当日は9時30分までに管理事務所前で申し込みを行ってください。  
子供部参加者には、クレヨンと画用紙を贈呈します。  
一般部参加者は各自画材を持参のこと。

10/10日・11日

相模原麻溝公園

お願い フェア中は会場周辺が非常に混み合うことが予想されます。ご来場の際はバスなど公共交通機関をご利用ください。JR相模原駅から相武台前駅行きバス「総合体育館前」下車 小田急相模大野駅から女子美術大学行きバス「総合体育館前」下車



## 地域の緑は一人ひとりの心がけから。

上磯部緑友会代表 野頭謙一さん

上磯部緑友会が活動している相模原市上磯部は、まだ自然を色濃く残す相模川流域にあります。すぐ目の前に川や中州の緑が眺められる野頭さん宅の庭先でお話を伺いました。庭にもたくさんのお花や草花。樹齢何年になるかわからないという大きな榎の木がひと際目を引きます。豊かな自然に囲まれて育った野頭さんにとって緑は「常に当り前のように身近にあったもの」。

また野頭さんには「相模原上磯部民俗資料保存会」会長という、もう一つの顔があります。自宅敷地内に建つ郷土民俗資料館には、保存会の活動によって集められた数々の道具類が展示されていて、小学校の団体見学ほか一般にも開放しています。

「地域に深い愛着がある」という野頭さん。緑友会の活動も、そして保存会の活動も、地域の中にある大切にすべきものを伝え残していきたいという、あたたかい気持ちで込められているに違いありません。

### 会の全員が積極的に活動

上磯部緑友会は平成10年に発足した会ですがそれ以前も親和会という地域団体で緑化活動を行っていました。現在の会員は60代から80代、男性ばかり16名で運営しています。おもな活動は、草木の植栽や草取り、公園清掃などで、そのほか社会見学会、お祭りなど地域団体の手伝いもしています。

具体的な緑化活動としては、みどりの協会が配布する花の苗を、子ども広場や相模川の散策路に植えたり、市からの委託を受けて相模川・三段の滝下周辺の草取りや清掃をしたり、ほかにも自発的に数か所、草取りなどを行っています。

これらは「土や緑に関係する作業に携わりたい」という声の会の中から挙がって始めたものです。農業をやっていた人がほとんどで、手慣れたことだから苦にならない。みんな積極的に「今度はこういうことをやろう」、「こんな花はどうか」というように案が次々に出るので、実際の活動にも熱心です。全員が役員のように、私はとても楽な会長です。

### みんなの力で地域をきれいに

長年住んだこの地域には、やはり愛着があります。だから地域のために何かしたいというのは、私だけでなく、会のみなが思っていることでしょう。同じような考えを持つ若い人たちが後を継いでくれることを望んでいます。そしてまた、多くの人たちが地域のことを考え、緑化についても進んで取り組んでくれるとうれしいですね。

初めの頃は会の活動も知られていなくて、周りの人たちも「だれが花を植えているんだろ」と思っていたようです。苗から植えて花が咲き揃うと、こんなところに花壇があると足を止めて見てももらえる。それだけでいいんです。

しかし、その花を引き抜いて持っていったら、周囲の人たちも「花を大切にしましょう」という立札を会の名前も入れて立てたんですが、それでもなくなっていることがあります。『花を取らないでください』という立札にしようか、などの意見もありましたが、それではあまりにも情けないでしょう。中には犬を散歩させて花壇の土にフン

をさせていく人もいます。本当に残念なことです。共有の場であり、自分たちの住むところなのだから、一人ひとりがきれいにしていかなければということを考えてほしいですね。



### 花や緑を楽しむための工夫

庭先から川を眺めるのは毎朝の日課になっています。天気の良い日は島（中州）の緑が水面に映って、とてもきれいです。川も緑も子どもの頃からずっと身近にあったからでしょうか、とくに緑に関心を持っていただけではないですね。好きとか嫌いとか、そういう

ふうに考えたことがなかったけれども、やはり緑があることで安らげるだろうし、ないと寂しいものではないでしょうか。

会で緑化活動をするようになって、今までより花や緑が目がいくよくなりましたね。近所に庭を花できれいに飾っている家があるんです。柵に花の鉢を掛けたりしているのを見ると、うまい工夫だなあと感じます。これなら庭がなくても花が楽しめるなあと思いました。多くの人がそうやっていろいろ工夫をして花や緑を飾るようになると、道行く人も目に止めるし、だんだん広まって関心も高くなるのではないのでしょうか。

市の広報などでも、緑化のための保全地域を紹介していることがありますが、大変良いことだと思えます。もっと市民にそういうところをアピールして、多くの人に緑に対する理解を深めてほしいですね。



### 野頭 謙一（のず けんいち）

一九二二年相模原市生まれ、同所在住。新磯地区自治会連合会長、新磯公民館運営審議会委員長などを歴任。上磯部民俗資料保存会会長、上磯部緑友会会長を務め、地域活動に尽力。



上磯部民俗資料保存会 周辺地域で古くから使われていた農具や生活用具、文書資料、写真などを収集、保存していることと活動している。また、昔の川の文化を知ってもらうため、昭和初期に相模川で運搬船として活躍していた帆かけ船を、相模川に浮かべ再現するという活動を15年ほど続けている（例年8月に実施） 写真 郷土民俗資料館

### \*花のまちづくり運動

みどりの協会が行っている、都市緑化推進事業の一つ。自治会、老人クラブ、子ども会、幼稚園、保育園などの団体・グループが、地域の公園、自治会館会場周辺、緑道などへ植える場合に限り、球根や苗木などを配布し、花のまちづくりを進めています。なお、地域のみならず自ら管理することが条件になります。上磯部緑友会の緑化活動もこの事業によるものです。詳しくは協会までお問い合わせください。

園芸ひとくちメモ <花から摘み> 花の盛りが終わったら、ハサミなどでその枯れかかった花を摘みとることをいいます。花をつけたままにしておくと、種をつくるために養分が取られてしまい、株が消耗してしまいます。そのため、次の花が咲かなくなってしまうこともあります。花から摘みによって、長く花を楽しむことができるわけです。